

(様式1)

令和4年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 002	提案機関名 横浜農業協同組合
要望問題名 クロピラリドによる生育障害発生抑制について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模 (面積、数量等) 】 クロピラリドは米国、豪州、カナダなどで牧草や穀類の生産に使われている除草剤の成分で、本剤が含まれる飼料を家畜に与えると、クロピラリドは家畜の糞尿中に排泄され、その家畜の糞尿を原料とした堆肥を土作りなどに使うとトマト、スイートピーなど感受性の高い野菜や花の生育に発育障害の起きる可能性がある。クロピラリドは家畜の体内に入っても速やかに糞尿中に排泄されるため家畜の健康に悪影響はないが、飼料及び堆肥中に含まれるクロピラリド濃度と生育障害との関連、クロピラリドが動物体内から糞尿として排出される際の濃度を in-vivo 単位で解明して欲しい。 また堆肥として生育障害をできるだけ減らす加工方法をも同時に開発して貰いたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	I 畜産技術センター II 農業技術センター	担当部所	I 企画指導部企画研究課 II 生産環境部土壌環境研究課
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) IX-1 地域内の未利用有機質資源の有効活用技術の開発 (2) 堆肥等有機質資源の有効活用技術の開発 ウ 未利用有機質資源の有効活用技術の開発		
対応の内容等	家畜が摂取したクロピラリドの動態については、既に国内外での研究成果がありますので参考にしてください。 堆肥の加工方法については、令和元年度から上記試験研究課題等の中で、各種炭化資材の利用等によるクロピラリド障害抑止効果について検討しています。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
備考	農研機構 (2009) 飼料及び堆肥に残留する除草剤の簡易判定と被害軽減マニュアル URL : http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/011167.html 神谷ら (2020) 肥育牛における糞尿中へのクロピラリド排泄. 日畜会報. 90 : 289-293		